

グアテマラとの出会い(その1、その2)

大田 美保(グアテマヤ)

1991年に中南米を放浪したのがきっかけでグアテマラに出会った。南米から陸路で北上してやっとたどりついたグアテマラは私にとってなぜかほっとできるそんな国だった。今まで旅していた国と比べて、先住民の数が圧倒的に多い、そして、マヤ先住民の女性達が織り成すカラフルな織物に取り付かれたといってもいい。彼女らの背丈や顔も私達モンゴロイド系と同じルーツなんだなと思わせることが親近感を感じたのかもしれない。

すべての旅程は3ヶ月のつもりだったが、グアテマラが気に入って1年いてしまった。アンティグアでスペイン語を習い、そこを拠点に各地の村を周り織物を見て回ったり、気に入ったところでは織物を習ったりした。

旅に出るまで全クラテンアメリカのことに何も知らずに行ったので、日本に帰ってから、現地において知らなかったことグアテマラの影の部分を知っていく。マヤ先住民は長い間、搾取され、虐殺されてきたこと、内戦は終わってないことなどなど...本という国いると何でも当たり前のようであって、よその国で誰がどのように暮らしているかなんて興味もなかった私とマヤ先住民との出会いによっていろんなことを考えさせられるようになった。

日本にいと居心地の悪さを感じた。グアテマラはコーヒーやサトウキビ、バナナ、綿花などたくさんの産物があるのにどうして人々は貧しいのか？日本は何も資源がないのに、よそ国からほとんどをまかなっているのに、物質的に豊かなのはどうしてか？疑問に思ったことを学んでいく中で、日本が他の国を搾取している構図が見えてきた。

フィリピンやマレーシアの熱帯林をパルプ紙、ヤシのみ石炭、バナナ、パイナップル、えびなどのためにどんどん熱帯林を壊していること、マグロの加工工場のために土地を奪われたりしていることを知って驚いた。今その国(島)は禿山になり、雨のたびに洪水になり流されたりしている。そして、元から暮らしている先住民は都会にでるしかなくもっと貧しくなっていく。

そんな構図とグアテマラも同じだと思った。グアテマラの資源は豊かなのに、おいしいところは、現地の人には還元されていない。グアテマラの自然はとてもすばらしいのに、それを政府は保護していない。他所の国の企業に持っていかれて、グアテマラに住む人には還元されていないばかりか、豊かな自然を破壊され、好きなように資源を持っていかれている。

グアテマラの森を守りたい

日本にいていない道路を作るため川を整備するために自然が壊され、悲しい姿になってしまった日本に暮らし、グアテマラを行ったりきたりしているうちに、まだ、残されているグアテマラの森(熱帯林)を残したいと思った。

いつかグアテマラに住むだろうと思っていたので、森を守りながら暮らしていこうと思った。それを決意してひとりNGOティエラマドレプロジェクトを立ち上げたのが、2001年。その活動はグアテマラの森の豊かさや人々の暮らしを写真を通してスライドトークし、日本とグアテマラの森のつながりを考えるきっかけを作るといようなことをやっ

ていた。

燃えてる森

その頃、グアテマラに行ったときに衝撃的な場面に出会った。グアテマラの首都からペテン地方へ行く道は広大な熱帯林がずっと続いているのだが、その熱帯林が燃えていた。いろんなところで、煙があがっていた。それをみてショックを受けた。どうして森が燃えてるんだろう？燃えてる森は、人為的に燃やしていて、燃え尽きた後の土地は肉牛を育てるための牧場になることがわかった。今まで森を守りたいと思ってやってきたけれど、この燃えてる森を前にして、絶望的な気持ちになった。たったひとりの私に何ができる？できることなんて何も無い。何もできない。こんな勢いと目に見えない大きな力で森はどんどん破壊されていく。大きなものに太刀打ちできないちっぽけな私の存在に無力感を感じ尽くした。そんな絶望的なところから、悩み尽くし、感じ尽くし、神に助けを求めた。

ひとりでも私にできることはある！

私が知ったことをみんなに伝えていくことができる。この構図をわかりやすく、絵にしてメッセージTシャツを作ろうと思った。そうすれば、それを着てアピールすることができる。私はグアテマラでその思いつきを形にした。豊かな森が燃やされ、牧場になり、ハンバーガーになっているイラストをいれた

名づけて”NOハンバーガーTシャツ”

その後もグアテマラの森を守るための”私達にできることTシャツ”というのも作り、今年はおrganicコットンで”SAVE the Mayan Jungle”Tシャツを作った。

これらのTシャツはサイズが無くなったものもありますが、販売しています。

NOハンバーガーTシャツ;2000円 白 M, L

私達にできることTシャツ;2000円 生成り、ベージュ M, L, XL

こちらのTシャツは miho@mayanuts.jp まで

SAVE the Mayan Jungle Tシャツ(オーガニックコットン) 3980円
子供用もあり。 <http://purana.in/earth/>

- グアテマラとの出会い その2

メッセージTシャツを作り、イベントや、スライドトークをする時に販売した。児童館、小学校、高校、公共のイベントなどいろんなところでグアテマラジャングルスライドトーク&ワークショップをしてきた。私が見てきたこと、感じたことを伝えてきた。

やっているうちに日本の人達に伝えることも大事だけでも、グアテマラの森や人に何か直接的にできることはないだろうかと思い始めた。人々が森と共存しながら持続的に暮らしていける方法はないだろうか？そんなことを考え探し続けていた。

マヤナッツとの出会い(ラモン)

大分まえにペテン県エルレマテ村の薬草の先生からラモンのことを教えてもらっていた。ラモンは森に自生する木の实。古代マヤ時代には主食されていた。そして、とても栄養価が高い。森にいけばたくさん実が落ちている。実を拾ってきて、煮てつぶしてそれをエンパナーダやトルティーヤの生地にして食べる。緑色をしておいしい。天日干しして、焙煎、粉にすれば飲むことができる。穀物コーヒーのような味わい。

こんないいものが森にあるのだから、これを商品にして輸入すれば、森の人達がラモンによって生活していけるようになるのではと思ったのだ。最初は、天日干したものをこっそり日本に持ち帰って、スライドトークの時に試飲してもらっていた。おいしいという声はあっても、これを日本で売っていくことに関してはとても厳しい意見をたくさん聞いた。栄養もどのような栄養があるのかわからなければ調べられない。わかったとしても調べるにはとてもお金がかかることもわかった。日本にいながら、このことをやっていくにはグアテマラでプロジェクトを任せる人がいないと私ひとりではとても無理だ。どうしていったものか、途方にくれ、ずっとそのままになっていた。

マヤナッツ(ラモン)生産者との出会い

ある年グアテマラに行って精力的に森とつながる団体を訪ねて、関わりを探していた。ぴんとくるところがなく、いつも行くエルレマテ村に滞在していた。ラモンのことを地元の人と話していたら、隣村に何やら女の人達がラモンを商品にして販売しているらしいと聞いた。早速翌日訪ねて行ったら、家の庭先でやっている。やっている。ラモンがすごくたくさん干してある。そして、傍らでは何やらかまのようなところで実を炒っている。その反対側にはモーターがうなりながら粉を挽いている。

私は興奮していた。夢にまでみた、ラモンがここで生産体制ができている。すごい。これこそ、森も人も守れるプロジェクトだ。ラモン生産者グループ(AlimentoNutris Naturales ペテン県イシュル村/ <http://www.theequilibriumfund.org>)のメンバー NGOの人と話しをして、私が求めていたものだ。私もこのプロジェクトと一緒にやりたい。何をすればいいか？と聞くと市場が必要だと言われた。ここで働く人を増やし、ラモンの収穫したものをたくさん買い取っていくにも市場がないと成り立たない。じゃ、私とその市場を広げることをやりますと言ってしまった。いろんなことを後から考えるとできなくなるが、あの時は何も考えずこれだと思った。

日本での試行錯誤

早速、日本に1キントル(約45キロ)買ってとりあえず、様子を見た。知り合い、自然食品店、お菓子を作る人、オーガニックレストランなど、いろんな人にその頃は無料でサンプルとして配って回っていた。あまり反応はよくなく、パッケージはグアテマラ仕様なので、日本用にパッケージを作りたいが、どうしていいかわからず、時だけが過ぎてしまった。やっていきますと言ったものの売れなければ、どうにもならない。在庫は減らず、お金もなく、次の注文どころか、グアテマラに行くことさえままならない。どうしたものか行き詰まっていた。

グアテマラへようこそ

こんな大変なことをひとりでやろうとしているのが無理なんだ。だけど、誰に助けを求めていいのかもわからずにいた。ある時、スロービジネススクール（SBS）というのを人に紹介された。今さら学ぶことなんてと思ったが、一人じゃできない。仲間やネットワークが必要と思い入学した。入学といってもインターネット上のMLでのやりとりがメインだったが、合宿でマヤナッツ（ラモン）のことをプレゼンテーションさせてもらう機会を得た。それがきっかけで応援してくれる人、仲間ができた。マヤナッツプロジェクトのMLを立ち上げその中で日本での商品化をすることができた。

それが去年の12月だったので約1年の間にほんとにたくさんの助けをもらいながらマヤナッツを広めるベースを作っていくことができた。暗礁にのりあげたあの頃、ひとりで悶々と広げたいのに何もできない無力さを感じたからこそ、今がある。ひとりでがんばってきたときがあるから、今の仲間の応援が心から嬉しい。これが売れるか売れないより、マヤナッツで森と人を守りたいというその思いが私だけの願いではなく、多くの人と分かち合え喜びあえることが幸せだ。前に進なくなってしまうようになってしまったとき、あきらめなかったのは、神様がこのことを私に託してるのならいつか願いはかなうだろうと信じてやってきた。まだ、始まったばかりで道はこれからだけど、たくさんの人に支えられてやっていけるのだと信じている。そして、何よりもグアテマラのグループの女性達がほんとに元気に女性としての尊厳をとりもどし、生き生きと働いている姿をみて何より嬉しい。そして、この取り組みが森が守っていけることにつながることを願っている。
最後まで読んでくださってありがとう。感謝！！

グアテマヤ <http://www.mayanuts.jp>

マヤナッツ商品こちらから買えます。

SBS 公式サイト インタビュー記事紹介されています。

http://www.slowbusiness.org/article.php/200807_ota_maya1

ショップ「膳（Zen）」こちらからもマヤナッツ商品買えます。

<http://shop.slowbusiness.org/>